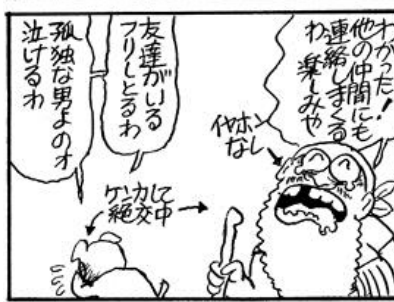


ダンブあきた

NO.393 全日本建設交連一般労働組合（略称・建交労）秋田ダンブ支部
 2019年9月5日発行 〒010-0976 秋田市八橋南 1-2-29
 Tel.018-823-7748 fax018-823-7751
 Email: kenkourouakita@bz03.plala.or.jp
 一人はみんなのためにみんなは一人のために、一人が一人の仲間をふやそう、労災保険に加入しよう
 田中 070 - 5324 - 4053

カマヤん 一人語り ありむら蒼



ダンブ夏タイヤの注文

- 再生タイヤ 21,000円 (BS・G611のパターン)
 20,500円 (ヨコハマ扱い)
 新品タイヤ 34,000円 (BS・14プライ)
 36,000円 (BS・16プライ)
 32,000円 (ヨコハマ)

消費税・送料込みの価格です。注文の時、メーカーを必ずお知らせください。希望の場所に配達します。冬タイヤもOK（配達代無料）
 ※県外への配達には運賃実費が必要です。代金は3回以内で納入します。

在庫確認が必要なので、注文の際に組合へ問い合わせてください。パターンもお知らせください。BS新品は8月1日より、値上げしました。なお、ヨコハマタイヤ販売店扱いは、弘進リトレッド製の再生タイヤとなります。

任意保険を自動車共済に切替えよう

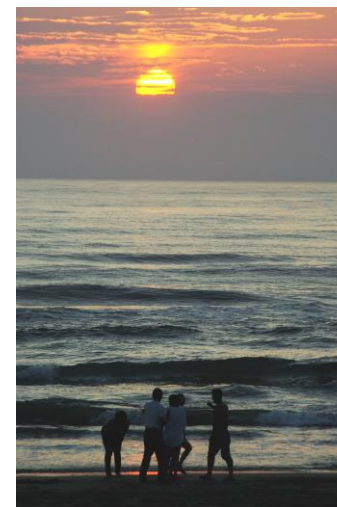
安くて事故後のサービスも安心です。見積もりをしますので、事務所にまず電話を。

退職金額早見表 日額310円証紙の場合

掛金納付年数	掛金総額	退職金額
1年	78,120円	23,436円
2年	156,240円	156,240円
5年	390,600円	410,781円
10年	781,200円	945,903円
15年	1,171,800円	1,572,816円
20年	1,562,400円	2,256,366円
25年	1,953,000円	3,029,754円
30年	2,343,600円	3,902,745円

来年9月の声予想
 やっぱ夏にやるべきではなかった。
 やっと終わったが財政負担は重く不透明
 ……東京オリパラ

世相笑々



建退共手帳を持っていますか

「建退共」は、建設業の現場で働く皆さんのために国がつくった退職金制度です。公共事業においては、証紙（日額310円）の代金が積算され、元請が購入しています。ダンブ労働者や建設労働者が建退共証紙の請求をすれば、元請や下請から1日につき1枚の証紙を手帳に、はってもらえることになっています。

今までは2年以上の加入期間がなければ退職金がもらえませんでした。1年以上の加入でももらえるようになりました。（左の表を参照、1年あたり252枚の証紙をはったとして計算）

建退共手帳のない方、なくしてしまった方は組合に申し出てください。発行の手続きをします。



交通安全推進団体の印
 組合のプレートを出して堂々と仕事をしよう

組合加入者の紹介を！

数の力で強引な改憲案づくりめざす……萩生田発言

萩生田光一自民党幹事長代行は、憲法審査会での議論が進まないことについて「有力な方を議長において憲法改正シフトを国会が行っていくのが極めて大事」とネット番組で衆院議長交代の可能性を発言しました。

同氏は2019年4月にも憲法審査会に対し「ワイルドな運営が必要」と発言しています。憲法審査会においても数の論理で強行突破していこうという意思表示で、野党の反発を招きました。

与野党の幅広い合意形成をめざすこれまでの憲法審査会の運営を完全に否定して、改憲に賛成する勢力だけで強引に審査会を運営しようとしています。自民党の改憲原案を憲法審査会で論議させて条文案づくりを進めようというものです。

武器より 防災でしよ

5割切る投票率 政治に嫌気 若者の無関心

参議院選挙が終わった。投票率は何と50%を切った。参議院選挙で50%を切ったのは24年ぶり。24年前の1995年という年はどんな年だったのか、思い起こしてみた。

阪神大震災、オウム真理教のサリン事件が起こり、安全・安心の政治が大きな争点となった。国政では非自民の連立内閣が崩壊する中、自社さ共同内閣＝村山内閣が誕生する。一方、東京都知事には青島幸雄が、大阪府知事には横山ノックが当選する。有権者は不安と苛（いら）立ちを抱えながら、投票行動には移すことはなかった。結果95年の参議院選挙は44.52%の投票率。自民と連立した日本社会党に厳しい審判が下されることとなり、村山内閣は崩壊した。

今年の選挙の背景も森友・加計問題をはじめとした、隠ぺい、忖度政治が横行。「くさい物には蓋（ふた）を…」といってもあまりにくさい物が多すぎて、蓋さえ閉まり切らないまま選挙へ…。北朝鮮と韓国を巧みに利用し、ナショナリズムをくすぐる政権の手法にも嫌気が先に出て、変革のパワーは素直に発揮されなかった。結果投票率は48.80%。

とりわけ10代、20代の投票率の低さが深刻だ。総務省発表によると18歳が34.68%、19歳が28.05%と2割台にとどまった。いかない理由で「政治に関心がない」が10代、20代では48%（朝日調べ）に達したという。

政治で生活が変わる実感をいかに持てるか。10代、20代の青年が自ら体験し勝ち取る必要がある。大人たちのわかりよい言葉と運動の在り方という努力もいるのではないか。

飯田光徳 社会福祉法人「野の花福祉会」

民意は改ざんできない



男鹿の花火 8.14